

### 第3回動物実験委員会議及び第2回組換えDNA実験安全管理委員会議事録

日 時 平成30年5月1日（金）16時00分～16時55分

場 所 第3会議室

議 題

1. H29年度動物実験結果報告について
  - ①亜鉛フィンガータンパク質のマイクロフェージ機能および動脈硬化の病態生理における役割の解明
  - ②アスピリンが皮膚および腸管のバリア機能に及ぼす影響と感作を促進する可能性についての検討
2. 実験動物の飼養保管マニュアルについて
3. 動物慰霊祭について
4. その他

参 加 者 委員長：本荘臨床研究部長（動物実験）、上田副院長（組換えDNA実験）  
委 員：岸川アレルギー科医長、本村小児科医長（欠）、  
吉澤リウマチ科医長、平本心療内科医長、田場小児科医師（欠）、  
北本臨床検査科長、山之上管理課長

議事（山之上管理課長）

報告者：北本臨床検査科長、杉山アレルギー科医師

#### 【議事概要】

臨床研究部長）

動物実験委員会の委員長は臨床研究部長、組換えDNA実験安全管理委員会の委員長は副院長であるが、本日の進行は副院長にお願いしたいがよろしいか。

一 同)

異議なし。

副院長（以下委員長））

ではまず、2件の実験結果の報告をお願いします。

1. H29年度動物実験結果報告について

申請者：北本臨床検査科長）

①亜鉛フィンガータンパク質のマイクロフェージ機能および動脈硬化の病態生理における役割の解明

#### 【実験経過報告】

アメリカの施設に依頼しキメラマウスまで作ってもらい、外部の受託施設でオス2匹、メス4匹のキメラマウスを交配させて生まれた子の尻尾だけをこちらに送っても

らった。ノックアウトマウスの遺伝子を引き継いでいればヘテロノックアウトマウス（欠損マウス）が得られるはずであったが得られなかった。

昨年の7月に一旦マウスを引き取って交配を続けているが、研究計画自体は計画通り進んで、問題もなく変更の必要もないが、その後もやはりヘテロノックアウトマウスは得られていない。今後もヘテロノックアウトマウスが得られそうにないため、実験は中止しようと考えている。

委員長)

何かご意見、ご質問はないか。

委員)

①の件について、費用の問題もあるということだが2匹のキメラマウスからノックアウトマウスが出来なかったということだが、別の2匹で試すということは出来ないのか。

申請者)

今回はアメリカの大学の中にある機関に依頼してキメラマウスが運良く生まれたが、必ずしもキメラマウスが生まれるとは限らず、他にも方法はあり現在は日本でも安く作成出来るらしいが、費用の面を考えるとこれ以上の研究は無理と判断した。

委員長)

他に意見はないか。

なければ次の報告をお願いします。

申請者：杉山皮膚科医師)

②アスピリンが皮膚のバリア機能に及ぼす影響と経皮感作を促進する可能性についての検討

#### 【実験結果報告】

アスピリン負荷群と非負荷群及び小麦接種群と非接種群の4群に分けて行った。結果はまだ全部は解析できていないが、途中の経過ではIgE抗体価、特異的抗体価においては差は認められていない。しかし、アスピリン負荷群では非負荷群との比較において、タイトジャンクションの構成タンパクの1つであるZO-1の低下が認められた。

追加で一部変更して実施しているが、まず変更点については、計画書では背部にテープストリッピングした後に試薬を3日間貼付して4日間休止を繰り返すとしていたが、テープが足に引っかかるなど張り込むのが難しかったため毎日試薬を定容して外用することとした。

追加点は、4グループの実験を終了した後に、感作される個体とされない個体があったので、個体差について食事の影響を同じマウスで見るために2群に分けて、最初小麦を食べさせないで4週後から食べさせ、同時に試薬を外用することを中止して小麦だけを食べさせて腸管への直接の影響を調べる方法を取った。

結果はまだ得られていない。解析中である。

委員)

小麦を食べさせないマウスは何を食べさせたのか。

申請者)

コーンと米が主食で更に大豆等を与えている。体重減少もない。

委員長)

タイトジャンクションの低下はどこ部位か。

申請者)

皮膚のタイトジャンクションです。腸管（小腸）も観ているが解析はまだ終わっていない。

委員)

アスピリンがあると腸管の受容体が活性化されるという論文あるらしいが、その点についてはわかりそうか。

申請者)

難しいと思う。

委員)

最終目標はどこに置くか。

申請者)

皮膚が、本来はアスピリンを負荷していた方が早く感作されるのではないかと考えていたが逆かもしれない。皮膚に傷を付けるとアスピリンによって早く修復作用が働いて、逆に痒がりが出なかったため、アスピリンに関して抗炎症作用とヒスタミン遊離の抑制作用があるという報告があるのでそこを見極めたい。

委員長)

①の実験も含めて他に質問等はないか。

委員長)

変更追加については承認ということでよいか。

一同)

特になし。

委員長)

では、承認する。

## 2. 実験動物の飼養保管マニュアルについて

臨床研究部長) (福岡病院 実験動物の飼養保管マニュアル 1部)

平成 29 年度の動物実験に関する自己点検・評価報告を行った際、自己点検項目の中に「実験動物の飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか？」という質問があった。現在、飼養保管基準に適合し適正に実施しているが、当院にはマニュアルがなかったため、今回作成し委員会で承認して頂きたい。

一同)

異議なし。

委員長)

では、承認する。

## 3. 動物慰霊祭について (報告)

臨床研究部長)

平成 30 年 3 月 22 日 15:00～ 研修情報センター2F CR2 にて動物慰霊祭が滞りなく終了した。

参加者は岩永院長をはじめ 8 名。

4. その他  
委員長)

その他、ご意見等無いか。  
なければ以上で終了する。

－ 以 上 －